

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1661 号

Altered serum glyceraldehyde-derived advanced glycation end product (AGE) and soluble AGE receptor levels indicate carbonyl stress in patients with schizophrenia

(Glycer-AGE および sRAGE の測定と統合失調症患者におけるカルボニルストレスの関連研究)

武田 真侑 (たけだ まゆ)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、強力な神経毒性をもつグリセルアルデヒド由来 AGEs (Glycer-AGE) と、その効果を改善させる可溶性 AGE 受容体 (sRAGE) を、統合失調症を有する患者における診断、治療、臨床生物学的マーカーとしての可能性を決定するために測定し、研究したものである。方法として、今回入院した 61 例の急性期統合失調症の患者を対象とした。それらのうち 54 人の患者を入院から退院までの期間追跡することができ、ペアサンプルとして使用した。健常者対照群は 39 例で、DSM-IV の I 軸診断の精神疾患に該当しないことを条件とした。結果として、急性期統合失調症患者で Glycer-AGE 濃度は高く sRAGE 濃度は低く、臨床経過にわたって一定していた。また、Glycer-AGE/sRAGE 比は、健常対照群よりも統合失調症患者で有意に高かった。本研究は、急性統合失調症患者における Glycer-AGE 濃度の有意な増加を示した最初のものである。また、カルボニルストレスのバイオマーカーである Glycer-AGE、sRAGE を統合失調症において、横断的かつ縦断的に評価を行い、結果としてカルボニルストレスが急性統合失調症患者の一部に存在し、統合失調症の病因と治療の研究に重要な所見が追加されることを示唆している臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。